

第164回 日商簿記検定試験 1級 一原価計算一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

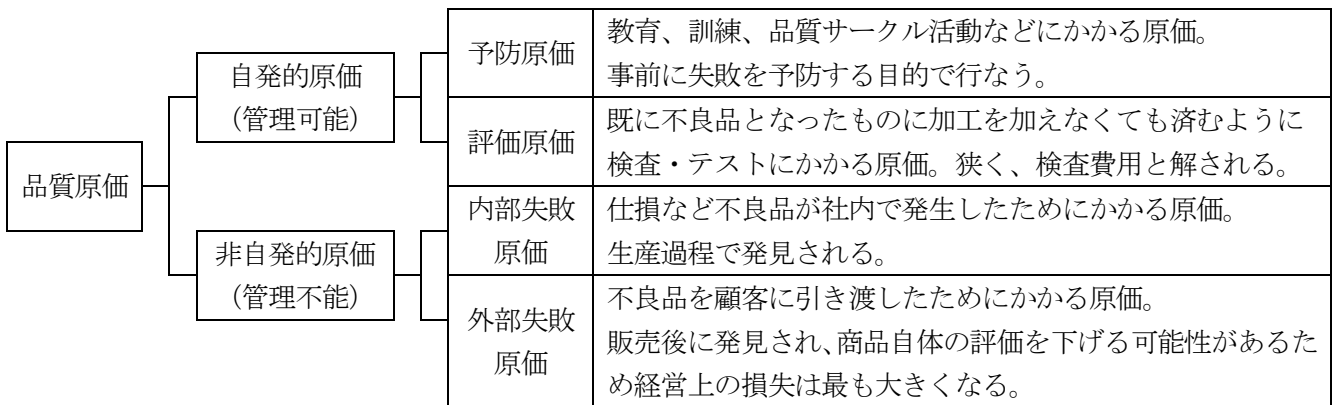
第1問 正誤問題(ライフサイクル・コスト/品質原価計算)

戦略策定への貢献が期待されている現代の原価計算において、典型的な手法である品質原価計算及びライフサイクル・コストについて問われている。まずは概要を以下に記載する。

(1) 品質原価計算について

[品質原価計算とは?]

品質原価の測定と伝達を通じて**品質改善**と**品質投資戦略**に役立てるツールのこと。



① ○

② ×

(理由) 品質原価計算では品質保証活動を予防原価、評価原価、内部失敗原価および外部失敗原価に分けて把握する。リコール費用は不良品を顧客に引き渡したためにかかる原価であるため外部失敗原価である。しかし、仕損費は社内が発生した原価であるため内部失敗原価に区分される。

販売後に発見される外部失敗原価はレピュテーション(商品・サービス事体の評価)を毀損する可能性が最も高く経営上の損失が大きくなることから、多くの日本企業では自発的原価(予防原価と評価原価)にコストを掛けることにより未然に不良品を防ぐ事が重要視されている。

③ ×

(理由) 品質原価計算は設計品質に焦点を当てた原価計算ではなく、適合品質に焦点を当てた原価計算である。

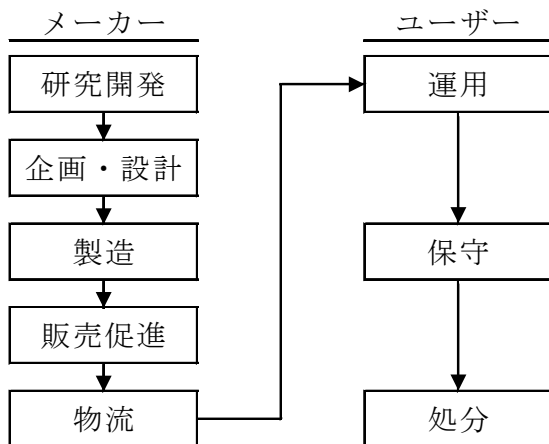
(2) ライフサイクル・コストイングについて

[ライフサイクル・コストイングとは?]

研究開発から処分にいたるまで、資産のライフサイクル全体で発生するコストの測定と伝達を通じて環境戦略、製品戦略、価格戦略に役立てる計算ツールである。

市場競争の激化、製品のハイテク化によってユーザーは製品の仕様だけではなく、製品購入後の運用・保守・処分費用といった利便性も求めるようになってきた。そのような背景から設計初期段階での品質、信頼性および利便性を高めていくためにライフサイクル・コストイングが注目されてきた。

[ライフサイクル]



④ ○

⑤ ×

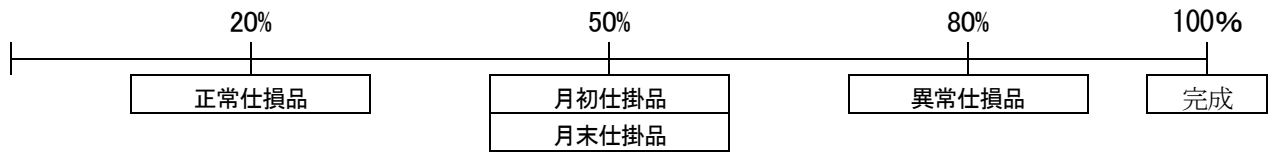
(理由) 安いものを作ると壊れやすいものができるように、製造コストとユーザーコストの間にはトレードオフの関係がある。ライフサイクルの上流では全体でのコスト低減が可能な企画・設計が求められる。

第2問 仕損費及び異常仕損費が発生する総合原価計算の問題

ポイント 総合原価計算における仕損費の処理を正しく理解しているか

(1) タイムテーブルの作成

タイムテーブルを整理すると以下のようになる。



(2) 仕損費の処理方法について整理していく

仕損費の負担計算については主に3つの方法がある

	負担関係	負担割合	分離計算
原則：度外視法	×	×	×
原則：進捗度を加味した度外視法	○	×	×
例外：非度外視法（厳密な方法）	○	○	○

負担関係：進捗度を考慮して仕損費の負担者を決定しているか否か
 負担割合：発生状況（定点発生、平均的発生）を考慮しているか否か
 分離計算：仕損費を分離計算しているか否か

本問においては、以下の点の指示が与えられていることから非度外視法にて計算を行う。

- ・解答用紙より正常仕損費の金額を求められていること

(3) 完成品と月末仕掛品への原価の配分は先入先出法を用いていることから、ボックス図に情報を整理すると以下のようになる。

仕掛品(原料費)			
月初仕掛品 14,400円 (加工費含む)	月初仕掛品 100kg	完成量 4,300kg	完成品原価 350,400円
原料費 352,000円	当月投入量 4,400kg	正常仕損 60kg	正常仕損品原価 4,800円
		異常仕損 40kg	異常仕損品原価 3,200円
		月末仕掛品 100kg	月末仕掛品 8,000円

仕掛品(加工費)			
加工費 260,640円	月初仕掛品 50kg	完成量 4,300kg	完成品原価 255,000円
	当月加工量 4,344kg	正常仕損 12kg	正常仕損品原価 720円
		異常仕損 32kg	異常仕損品原価 1,920円
		月末仕掛品 50kg	月末仕掛品 3,000円

※加工換算数量

(4) 正常仕損費の按分

①正常仕損費の計算

$$4,800 \text{円 (原料費)} + 720 \text{円 (加工費)} + 556 \text{円 (廃棄費用)} = 6,076 \text{円}$$

②正常仕損費の按分

$$\text{①} \div 4,340\text{kg} = 1.4 \text{円/kg (1kgあたり正常仕損費)}$$

$$1.4 \text{円} \times 4,200\text{kg (完成品)} = 5,880 \text{円} \quad \text{※他にも同様に算定していただきたい。}$$

(5) 正常仕損費按分後の各金額

(単位：円)

	正常仕損費	
	負担前	負担後
完成品原価	605,400	611,280
正常仕損費	5,520	-
異常仕損費	5,120	5,176
月末仕掛品	11,000	11,140
合計	627,040	627,596

問1 正常仕損費及び異常仕損費の算定

正常仕損費 6,076 円 (正常仕損品原価 5,520 円 + 廃棄費用 556 円)

異常仕損費 5,500 円 (異常仕損品原価 5,120 円 + 配賦額 56 円 + 廃棄費用 324 円)

問2 異常仕損費の会計処理について

「異常な状態を原因とする価値の減少」である異常仕損費は原価の本質である「正常性」を損なうため、非原価項目として営業外費用又は特別損失として会計処理する。

[営業外費用又は特別損失の判定]

定義

営業外費用：企業の本業以外で経常的に発生する費用のこと

特別損失：企業の本業以外で一時的・臨時的に特別に発生する損失のこと

本問において異常仕損費の発生要因は「機械の整備不良による故障」であることから、管理可能であるため営業外費用に該当する。

問3 当月の完成品原価と月末仕掛品原価の算定

完成品原価：611,280 円

月末仕掛品原価：11,140 円

問4 売上総利益の算定

製品勘定を整理すると以下ようになる。

製品

月初製品 27,720 円	月初製品 200kg	当月販売量 4,300kg	売上原価 610,600 円
完成品原価 611,280 円	当月完成量 4,300kg		月末製品 200kg

問題文より販売単価は 230 円/kg と記載があるため、売上高は 989,000 円となる。

989,000 円 (売上高) - 610,600 円 (売上原価) = 378,400 円 (売上総利益)